取扱説明書

卓上オートコレーター　ＬＣ－5800

ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよく
お読みください。また、いつでもお読みになれる
よう保管場所を決めて、大切に保管してください。

● ご使用の前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
● ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、危害や損害を未然に防止するためのものです。
● 「安全上の注意」に使用されている絵表示の例。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。(左図の場合は高温注意)

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。(左図の場合は分解禁止)

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)

安全上の注意

⚠ 警　告

	交流１００Ｖ以外の電圧で使用しないでください。またタコ足配線しないでください。火災・感電のおそれがあります。
	この機器の上に花瓶・植木鉢・コップや水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、水が中に入った場合、火災・感電のおそれがあります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、コードの上に重いものを乗せたり、引っぱったり、無理に曲げようとすると電源コードを傷め、火災・感電のおそれがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電のおそれがあります。
	この機器のカバーは外さないでください。感電やけがのおそれがあります。
	この機器の分解はしないでください。 感電やけがのおそれがあります。
	発熱していたり、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電のおそれがあります。すぐに電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。そして販売店までご連絡ください。
	異物（金属片・水・液体）が機器の内部に入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店までご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電のおそれがあります。

⚠ 注　意

	駆動部分には絶対に手を触れないでください。 けがの原因になります。
	髪の毛・ネクタイ・ネックレス等をローラーなどの駆動部に近づけないでください。けがの原因になります。
	本機器は卓上に設置して使用するよう 設計されています。 設置の際は、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。 落ちたり、倒れたりしてけがの原因になります。
	湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因になります。
	電源コードを抜く時は、必ずプラグを持って抜いてください。 電源コードを持って引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因になります。
	給紙テーブル・排紙テーブル・転倒防止板が正しくセットされているか、確認してください。外れてけがの原因になります。また、給紙テーブルの取付け、取外しの際は、機械の転倒に充分注意してください。
	本機器を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 コードが傷つき、火災・感電の原因になります。
	連休等で長時間本機をご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

はじめに

ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みください。
特に「⚠警告」、「⚠注意」は必ずお読みの上、正しくお使いください。
この「取扱説明書」は、必要な時にいつでもお読みになれるように保管場所を決めて、大切に保管してください。
この製品は改良のために、仕様を変更する場合があります。このため同一製品においても「取扱説明書」の記載内容が異なる場合がありますので、製品ごとの「取扱説明書」を混同して使用しないでください。

目　次

１．　設置前の注意事項

１．１　設置について

<table>
<tr><th colspan="2">⚠ 注　意</th></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>卓上コレーター専用台の上にコレーターを設置してください。
ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因になります。</td></tr>
<tr><td>湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
火災・感電の原因になります。</td></tr>
</table>

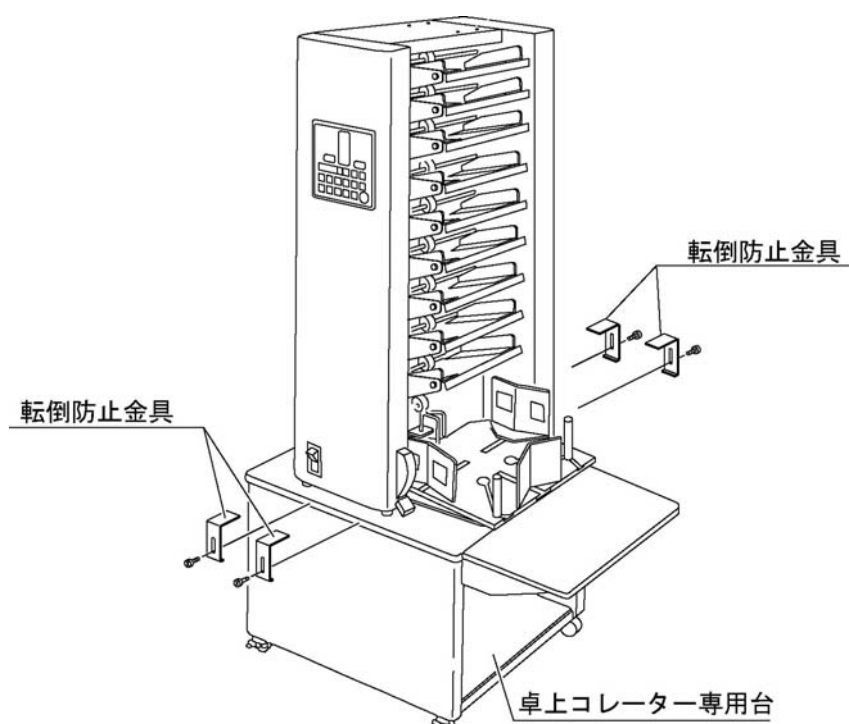
※接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行って下さい。又、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行って下さい。

※本機を設置する場合は、卓上コレーター専用台（オプション）を使用してください。

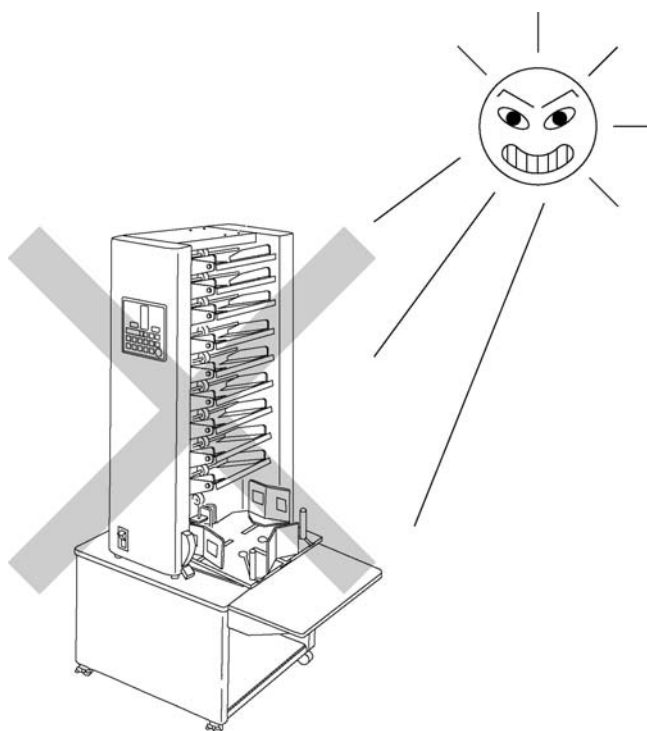
卓上コレーター専用台には転倒防止金具等の安全対策がしてあり、またコレーター単体でも後処理機（ステープラパンチ等）連結時でも全体の平行が保てるよう設計されています。

※コレーター使用中及びコレーターの付近で作業をしているとき、本機に寄り掛かったりしないでください。転倒の恐れがあります。

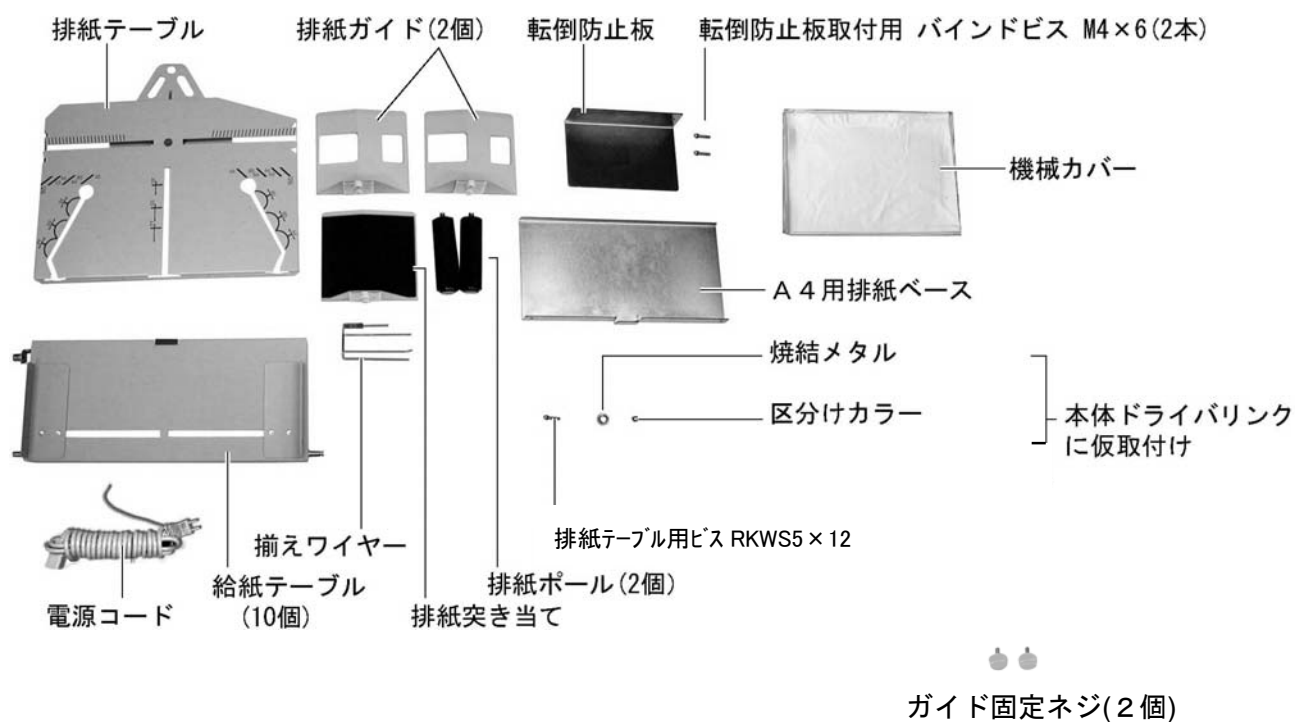
※コレーター本体を移動するとき、本体の上部を押すと転倒する恐れがありますので移動する際は卓上コレーター専用台を持って移動してください。

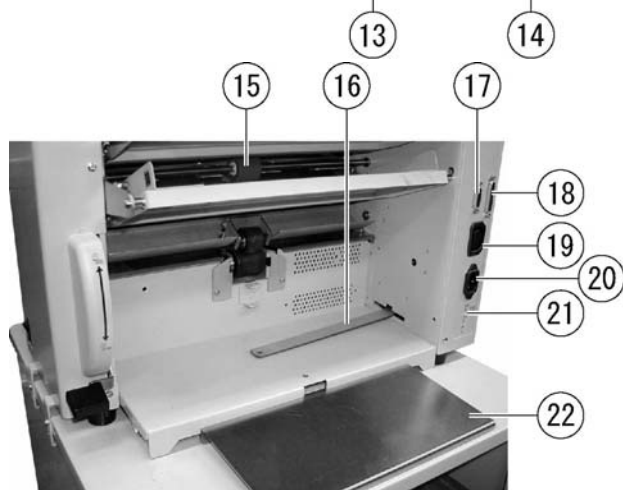
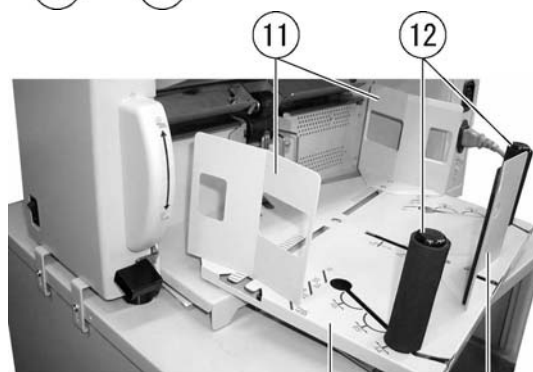
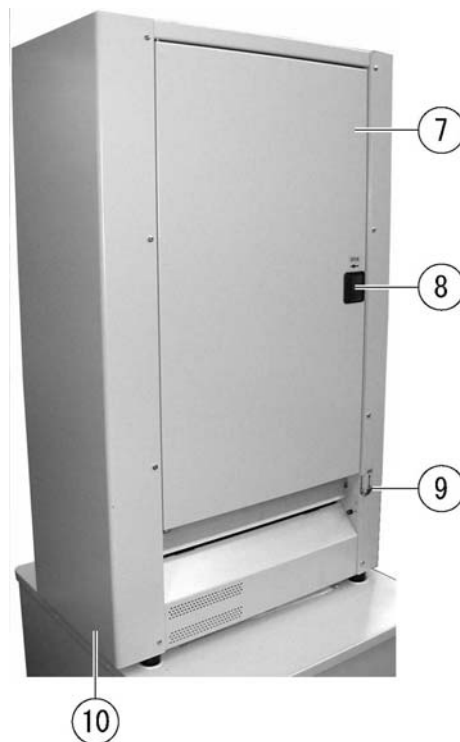
※コレーターを設置したとき、転倒の恐れがある場合は壁固定金具（別売）にてコレーターを壁に固定してご使用ください。

１．２　設置場所の確認

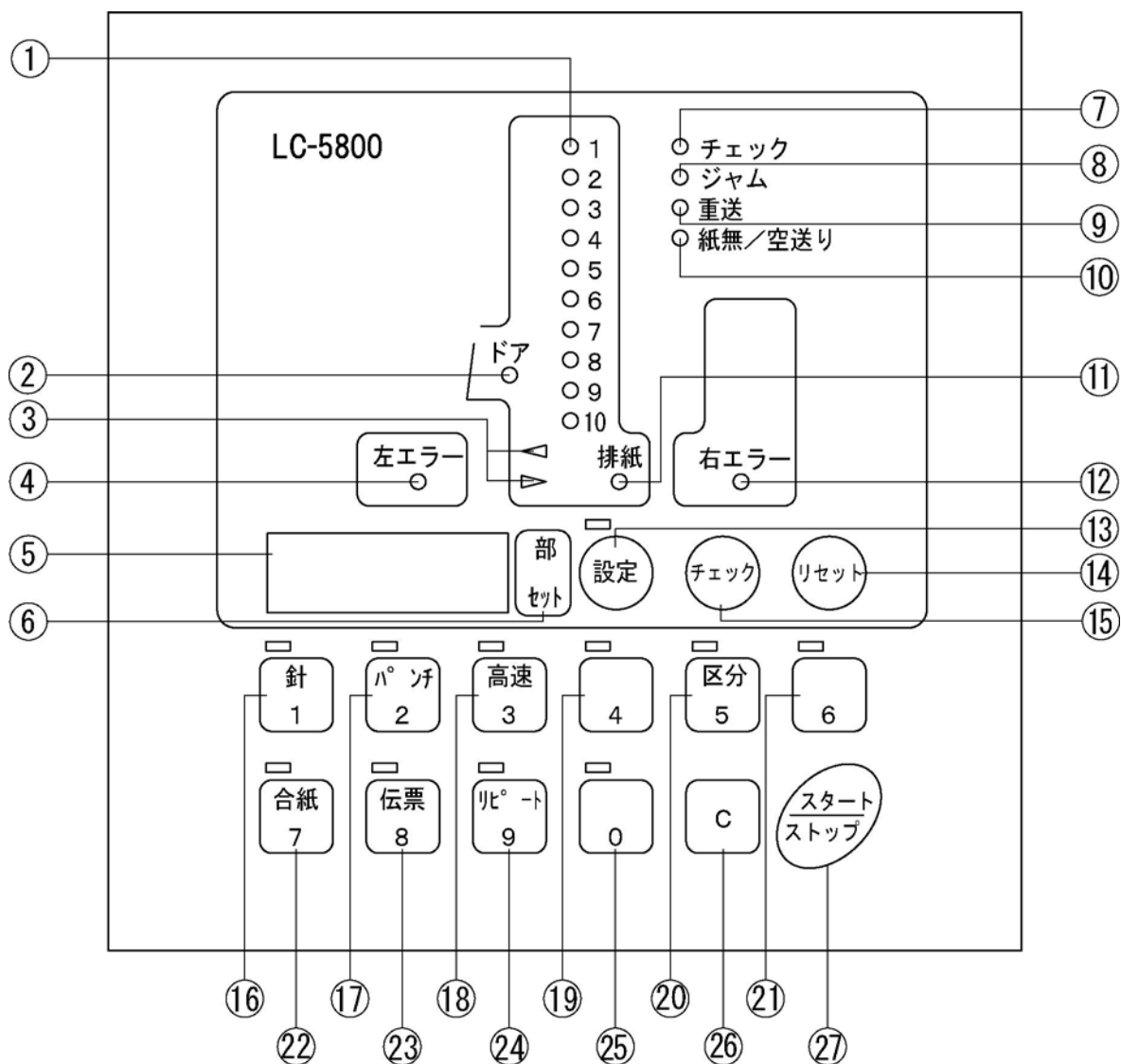
次のような場所は安全上、また機械の故障になりますので、避けてください。

- 高温・低温の場所
  室温は５～３５℃の範囲でご使用ください。
- 水などが飛び散り、漏電を起こす危険性のある場所
- 暖房器具に近い場所
- 風が直接当たる場所
- 換気の悪い場所、狭い場所や暗い場所
- 窓際等の直接光が当たる場所に設置すると光センサーが誤動作する事があるので、設置場所を移動するか、太陽をさえぎる厚手のカーテン等で光を遮断するようにしてください。

１．３　付属品の種類・数量の確認

開梱したら、付属品の確認をしてください。万一不足していたらすぐに販売店に連絡してください。
また、保証書に必要事項を記入頂き、登録手続きを行ってください。

ガイド固定ネジ(２個)

２． 製品各部の名称

２．１ 外観

番号	名　称
①	操作パネル
②	左カバー
③	用紙ガイド
④	給紙テーブル
⑤	電源スイッチ
⑥	テーブル昇降レバー
⑦	バックドア
⑧	スライドラッチ
⑨	単独/連結切替レバー
⑩	右カバー
⑪	排紙ガイド右・左
⑫	排紙ポール
⑬	排紙テーブル
⑭	排紙突き当て
⑮	給紙ローラー
⑯	ドライバリンク
⑰	右コネクタ（右タワー接続用）
⑱	左コネクタ（オプション・左タワー接続用）
⑲	アウトレット（オプションのステープラパンチ・ステッチャー・スタッカー接続用）
⑳	インレット
㉑	ブレーカ
㉒	Ａ４用排紙ベース

２．２　操作パネル部

番号	名　称	働　き
①	段ランプ	１～１０段の状態を表示
②	ドアランプ	バックドア部に用紙が残っている場合に点滅(オプション連結時)
③	◀▶	緑点灯時用紙の流れる方向を表示
④	左エラーランプ	赤点灯時左側のコレーターに異常が発生した事を表示
⑤	カウンター	丁合数を表示 エラー発生時には〔Ｅｒｒ　〕と表示
⑥	部・セット	合紙モード、プログラム合紙モード表示ランプ
⑦	チェックランプ	チェックが済んでいると緑に点灯
⑧	ジャムランプ	ジャム（紙詰まり）発生時赤点灯

番号	名　称	働　き
⑨	重送ランプ	重送発生時赤点滅
⑩	紙無／空送りランプ	紙無し／空送り発生時緑点滅 紙無し：その段が遅い点滅 空送り：その段が速い点滅
⑪	排紙ランプ	排紙ジャム／排紙満杯時点灯
⑫	右エラーランプ	赤点灯時右側のコレーターに異常が発生した事を表示
⑬	「設定」キー	緑点灯時各種機能設定可能状態 数字キー上の機能を使う時は、最初に「設定」キーを押して緑点灯させてから各種機能設定可能となる（５秒後に自動消灯）
⑭	「リセット」キー	エラーを解除するキー 待機状態で３秒以上押し続けるとメインモーターが空回転する
⑮	「チェック」キー	試し送りをするキー 使用する段、セットされている紙の厚さを記憶させる
⑯	「針／１」キー	緑点灯時ステープル加工「有」、消灯時「無」 数字「１」はカウンター入力
⑰	「パンチ／２」キー	緑点灯時パンチ加工「有」、消灯時「無」 数字「２」はカウンター入力
⑱	「高速／３」キー	緑点灯時高速丁合、消灯時低速丁合 数字「３」はカウンター入力
⑲	「４」キー	カウンター入力
⑳	「区分／５」キー	緑点灯時区分け「有」、消灯時「無」 数字「５」はカウンター入力
㉑	「６」キー	緑点灯時２台連結 カウンター入力
㉒	「合紙／７」キー	緑点灯時合紙モード 数字「７」はカウンター入力
㉓	「伝票／８」キー	緑点灯時伝票モード 数字「８」はカウンター入力
㉔	「リピート／９」キー	設定丁合部数終了後区分けする動作を繰り返し行う 数字「９」はカウンター入力
㉕	「０」キー	カウンター入力
㉖	「クリア」キー	カウンター表示をクリアする 「設定」点灯を消灯させる事も可能
㉗	「スタート／ストップ」キー	丁合動作の開始／停止を行う

３．　特に注意していただきたいこと

３．１　用語の定義

３．１．１　マーク解説

注意！　　注意していただきたいことです。
ポイント！　　知っていると便利なことです。

３．１．２　用語解説

名　称	解　説
ジャム	用紙が機械内部で詰まること
重送	２枚以上重ねて給紙すること
スリップ	用紙が送り込まれないこと
さばく	用紙同士がはりついている状態を空気を入れてはがすこと

３．２　特徴および使用目的

・印刷やコピーした書類を自動的にページ順に組み合わせることができます。

３．３　使用しないとき

・電源プラグをコンセントからはずしてください。
・機械カバーを掛けてください。

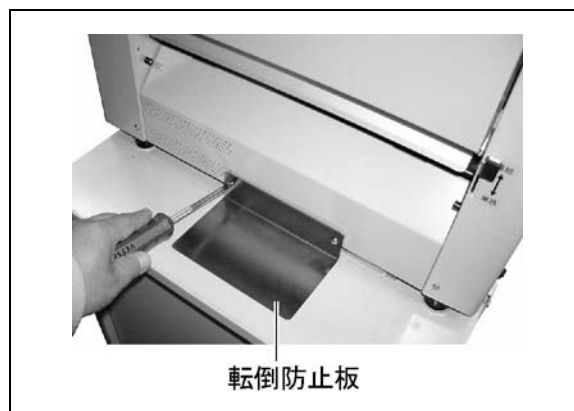
４．　使用前の準備

４．１　付属品を取付ける

１．転倒防止板の取付け

（1）転倒防止板を本体背面最下部の穴に合わせます。

（2）本体と転倒防止板の穴位置を合わせて、付属のバインドビス４×６（２本）で固定します。

転倒防止板

２．電源コードの接続

（1）電源コードを反操作側にあるインレットに差し込みます。

（2）コンセントにプラグを差し込みます。

注意！
延長コードやタコ足配線は誤動作の原因になりやすいので、極力避けてください。

インレット
電源コード

３．排紙テーブルの組立

（1）排紙テーブルに排紙ガイド（２個）・排紙突き当てを差し込みます。向きを間違えないよう注意してください。

（2）排紙ポール（２個）を穴に差し込み、溝に沿って移動させて取付けます。

（3）排紙ガイドを取り付けた後に、ガイド固定ネジを取り付けます。（左右各１ヶ所）

排紙ガイド　排紙ポール
排紙テーブル　排紙突き当て

ガイド固定ネジ

４．排紙テーブルのセット

（1）①Ａ４用排紙ベースの出っ張り部分を排紙ベース中央の角穴に引っ掛けます。
排紙テーブルの穴に焼結メタル・区分けカラー・区分けメタルスペーサ・排紙テーブル用ビス（出荷時はドライバリンクの先端Ｍ５穴に取付けてあるのでドライバーにて外してから使用する）をセットし、プラスドライバーにてドライバリンクのＭ５穴に取付けます。

②排紙テーブル支点ネジ裏側のボルト部分を排紙ベースのＭ６穴にプラスドライバーで取付けます。

（2）揃えワイヤーを取付けます。

①排紙テーブルをコレーターに取付けた後、揃えワイヤーの後ろ側をコレーター側ワイヤー差し込み穴に差し込みます。
②揃えワイヤーの先端の曲がっている部分を指で摘んで手前に引き寄せ、排紙テーブル側ワイヤー差し込み穴に合わせます。
③先端の曲がっている部分をそのまま排紙テーブル側ワイヤー差し込み穴に差し込みます。

注意！
・排紙テーブルの取付け時、ネジの締め付け等は確実に行ってください。不完全な取付けは、機械のロックまたは排紙ジャムの原因となります。
・稼働部に手を挟まれないよう注意してください。

⚠ 注　意

給紙テーブル・排紙テーブルが正しくセットされているか確認してください。外れてけがの原因になります。また、給紙テーブルの取付け、取外しの際は機械の転倒に充分注意してください。

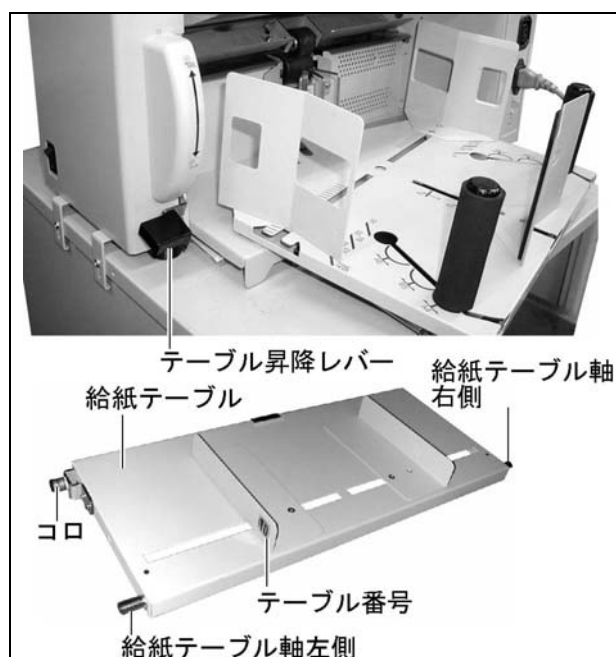
５．単独/連結切替レバーを単独側にします。

６．テーブルのセット

（1）給紙テーブルを下げる

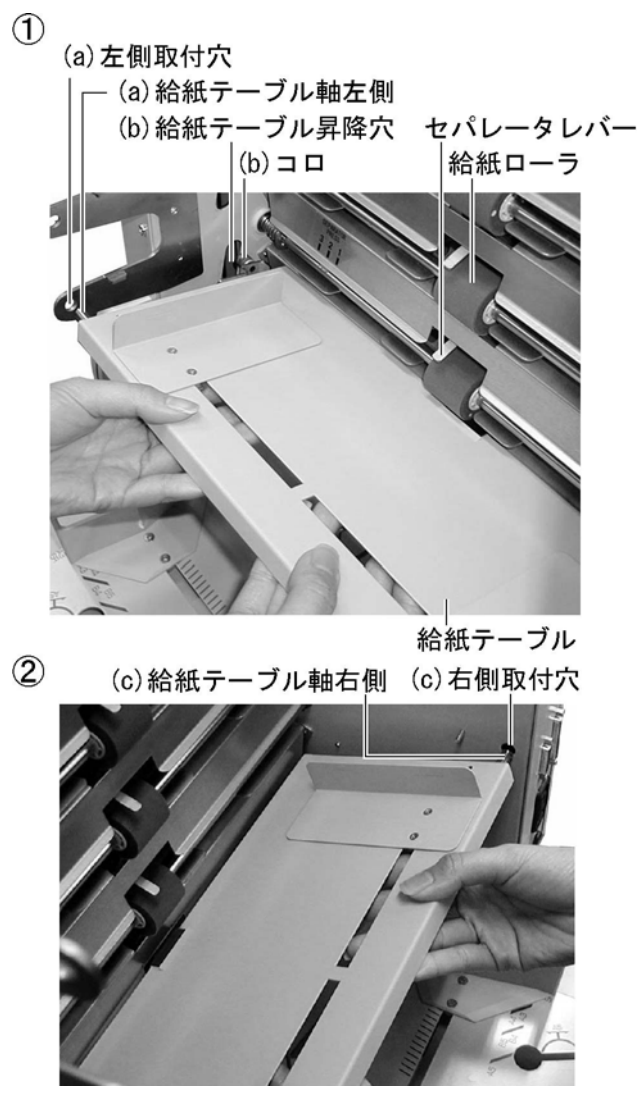
テーブル昇降レバーが上がっている場合は下げてください。上がっていると給紙テーブルをセットできません。

また、用紙ガイド左に貼ってあるテーブル番号は、最下段が 10、9 段目が 9･･･最上段が 1 となるよう取付けます。

給紙テーブルのセットは、下の段から行うと取付けがスムーズに行えます。

（2）①10 段目の給紙テーブルのセット
給紙テーブル 10 番を最下位置に取付けます。
（a）給紙テーブル軸左側を左側取付穴に
（b）コロを給紙テーブル昇降穴最下位置にそれぞれ差し込みます。

②給紙テーブル先端が給紙ローラとセパレータレバーの間になる位置にして、
（c）給紙テーブル軸右側を右側取付穴に合わせて差し込みます。

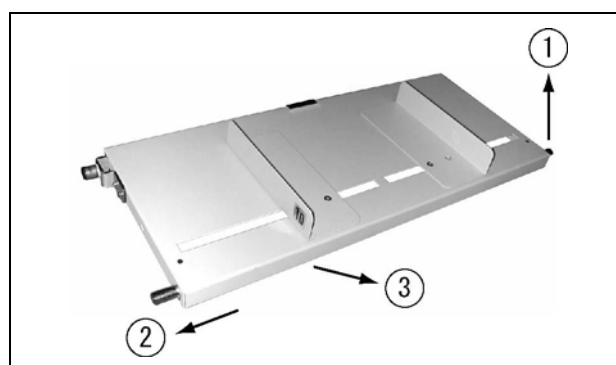
このとき、給紙テーブル軸右側の取付溝部分を右側取付穴に落とし込みます。溝部分が右側取付穴を通過してしまうと、初めに差し込んだコロと給紙テーブル軸左側が外れてしまうので注意してください。

（3）残りの給紙テーブルのセット
残りの給紙テーブルを 9 番、8 番・・・1 番の順で下段より同様の要領で取付けます。

注意！

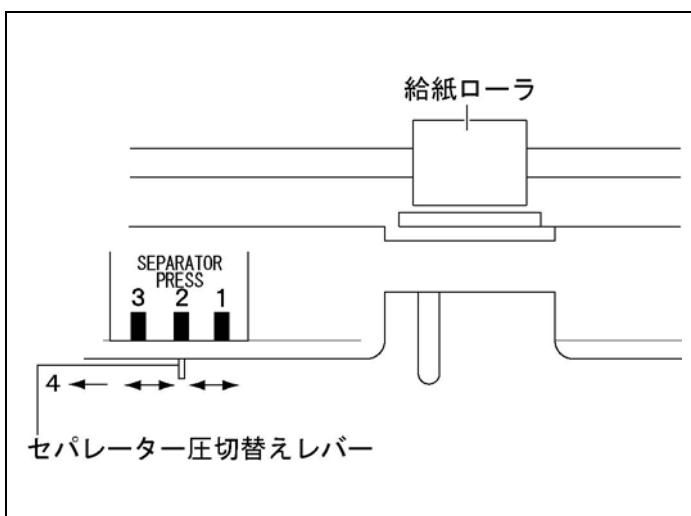
給紙テーブル取付時、順番は必ず守ってください。順番が正しくないと正確に紙送りができない場合があります。

7．給紙テーブルの外し方
①給紙テーブル右側を持ち上げて

②左にずらし、給紙テーブル軸右側を右側取付穴から抜きます。

③給紙テーブルを斜め右手前に引き出し、給紙テーブル軸左側、コロを左側取付穴、給紙テーブル昇降穴から抜いて給紙テーブルを外します。

４．２　セパレーター圧の設定

通常（一般紙の場合）は、セパレーター圧切替えレバーを「２」の位置にセットします。
セパレーター圧を切替える時は、給紙テーブルを外してください。
全段とも３段切替え
給紙スリップが発生した時は「１」（弱）にします。
重送が発生した時は「３」（強）にします。

※セパレーター圧の表示は「１」「２」「３」となっていますが、特殊なケースの場合に備え、「３」の左隣に「４」が内蔵されています。重送が多発して「３」でも重送が防げない時に使用してください。

５．　使用方法

５．１　操作の手順と方法

５．１．１　電源ＯＮ

電源スイッチを入れます。

注意！
電源をＯＮする前に必ず給紙テーブル・排紙テーブルが確実にセットされている事を確認してください。
また、単独/連結切替レバーが「単独」であることを確認してください。

５．１．２　用紙のセット

（１）使用する用紙を給紙テーブルに載せ、用紙ガイドを用紙に密着させてください。

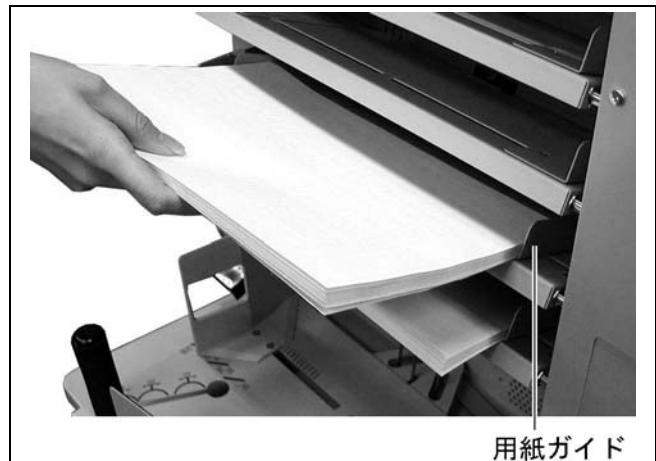
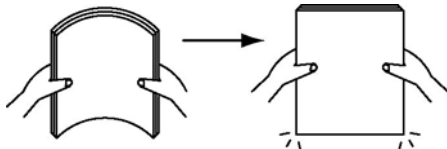
ポイント！

【用紙のさばき方】

①用紙の両端をつまみます。

②用紙を曲げて空気を入れます。

（軽く力をゆるめ､曲げてから再度用紙をつまむ）

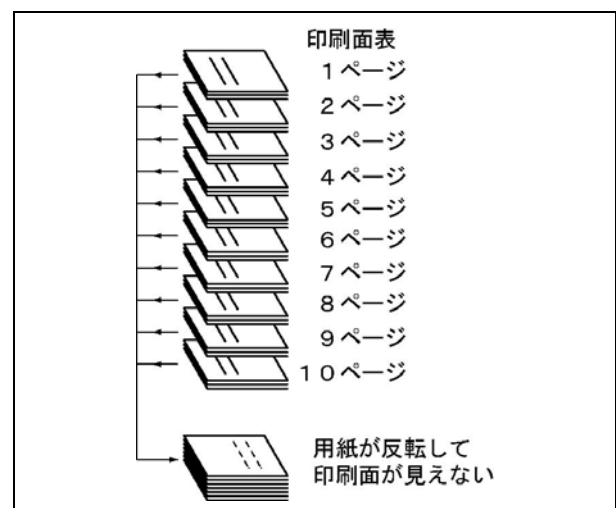
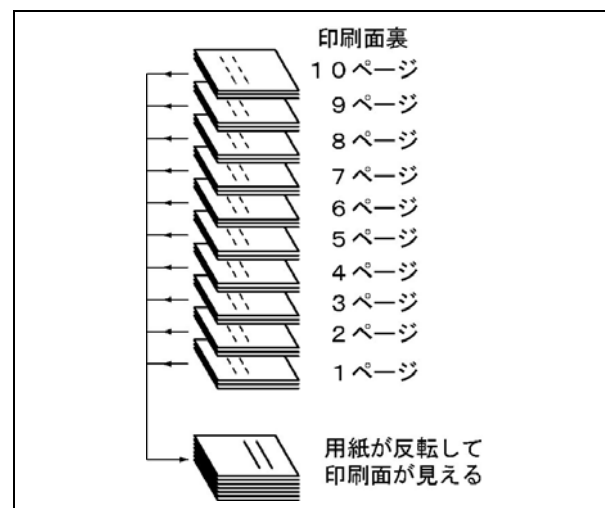
③上下に用紙を揃えます。

注意！

- **用紙積載量は目安として、用紙ガイド側面のライン以下です。ただし、印刷した用紙は膨らむため積みすぎないよう注意してください。**
- **用紙をよくさばいてください。さばかないまま使用すると重送等の原因になります。**
- **用紙は揃えて先端が軽く突き当たるまで差し込んでください。不揃いのまま使用すると空送りや重送の原因になります。**
- **印刷物のインキの乾きが不十分のまま使用すると機械が汚れるだけでなく、用紙表面のインキにより給紙ローラ・セパレータが汚れ、空送りや重送の原因になります。**
- **コピー機等で複写した用紙には、静電気が帯電しているため、給紙不良や排紙不良が発生しやすくなります。給紙トラブルが発生する時は、用紙の先端及び給紙ローラ等に静電気除去スプレー等を吹き付けてください。また、コピーした用紙は先端がカールしやすいのでカール矯正後セットし直すか、用紙を反転してセットしてください。**
- **ノンカーボン紙（一般的紙質）を丁合する場合、発色面（印刷面）を下側にしてセットしてください。発色面を上にセットすると給紙ローラのコスレ跡が若干出る事があります。**
- **排紙された用紙の表／裏は、排紙方向（単独／連結）により変わります。特にオプションを使用する場合は注意してください。**

（２）用紙を給紙テーブルに載せる時の順序について

①　印刷面を表にして載せる場合

上から順に給紙テーブルへページ順にセットしてください。用紙が裏返しの状態で排紙テーブルに排出されます。

この場合、１ページ目は一番下になって丁合されます。

② 印刷面を裏にして載せる場合
下から順に上の給紙テーブルへページを積んでください。
この場合、1ページ目は一番上になって丁合されます。

ポイント！

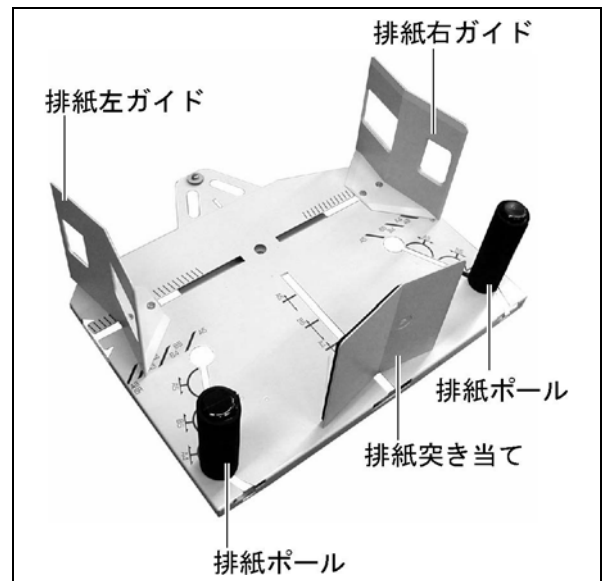
ページ数が少ない（10 段に満たない）時の用紙の積み方

・コレーター単独使用またはステープラパンチを連結して使用する場合
下の段（10 段目）から順に積んでください。
排紙の乱れが防げ、処理速度も速くなります。

・コレーターにオプション（コレーター2 台連結とステッチャー・大容量スタッカーと連結）を接続した場合、上の段（1 段目）から順に積んでください。用紙詰まりを防止できます。

５．１．３　排紙ガイド・ポールのセット

排紙右・左ガイド・スライドポール（２本)・排紙突き当てをそれぞれ用紙サイズに合わせてセットします。排紙時に用紙がガイド類に引っ掛かったり、揃わない場合は各スライド部を前後左右に微調整してください。

注意！

・ハガキ・システム手帳サイズの用紙を使用する場合は、棒積み排紙のみとなります。

・排紙の揃え具合はコレーターの処理速度によって変化します。速度を高速にすると用紙がポール・排紙突き当てに突き当たった後の跳ね返りが大きくなり、ズレも大きくなります。また、用紙が反っている場合は、高速の方がめくれやすくなり、揃えが悪くなります。
しかし、諸条件により、いちがいに低速の方が良く揃うとはいい切れないので様子を見ながら切替えてください。
用紙の種類によってコシの強いもの、弱いものがありこれが揃えに影響します。

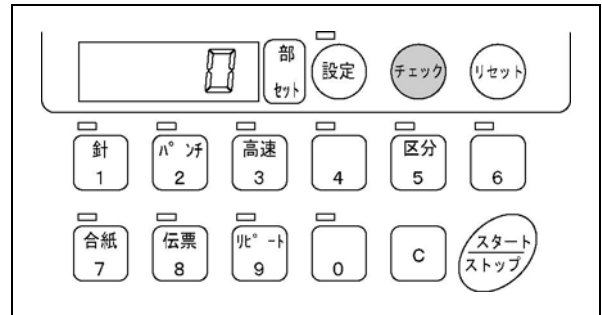
ポイント！

・排紙の揃えが悪い場合
→排紙テーブルに表示されているポール・ガイドの位置ゲージを目安にしてポール・排紙突き当てを左方向に移動（ポール・排紙突き当てと用紙の隙間が狭くなる方向）させます。また、排紙左右ガイドも位置ゲージを目安にして左右均一に内側（ガイド・ポールと用紙の隙間が狭くなる方向）に移動させます。
位置調整移動する場合は、一度に大きく移動させずに少しずつにし、排紙の揃え具合を見ながら行ってください。

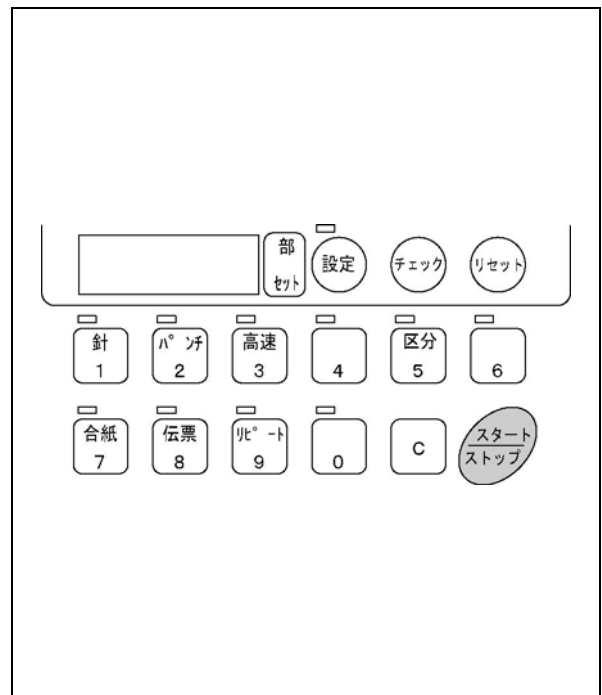
・排紙部でジャムが発生する場合
→排紙テーブルに表示されているポール・ガイドの位置ゲージを目安にしてポール・排紙突き当てを右方向に移動（ポール・排紙突き当てと用紙の隙間が広くなる方向）させます。また、排紙左右ガイドも位置ゲージを目安にして左右均一に外側（ガイド・ポールと用紙の隙間が広くなる方向）に移動させます。
位置調整移動する場合は、一度に大きく移動させずに少しずつにし、排紙の揃え具合を見ながら行ってください。

５．１．４　丁合

（１）給紙テーブルに用紙をセットしたらテーブル昇降レバーを上げます。

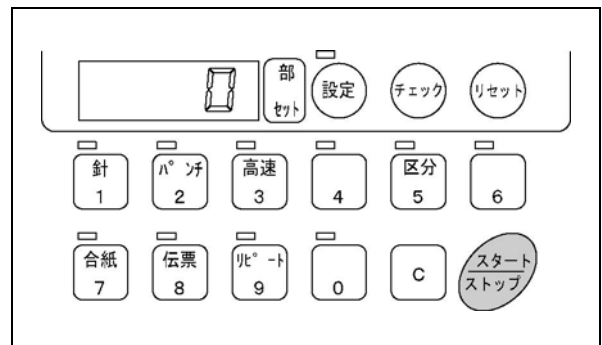
「チェック」キーを押し、試し送りをします。各段にセットされた用紙がそれぞれ１枚（１丁合分）給紙されます。
用紙の向き、順番、給紙ミスがないか確認してください。

（２）チェックして問題がなければ「スタート／ストップ」キーを押して丁合作業を開始します。丁合を停止したい場合は再度「スタート／ストップ」キーを押します。

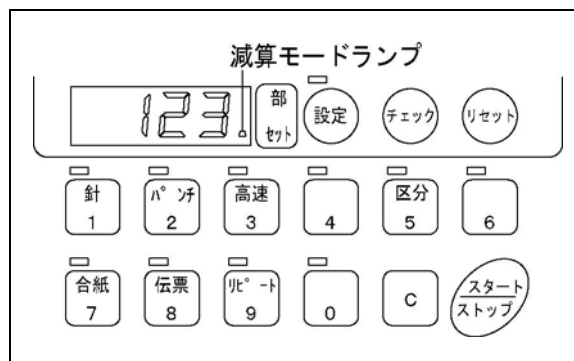
注意！
・給紙途中で電源を切らないでください。
・丁合中に給紙トラブルが発生した場合は、最後に排紙された１組は落丁しているので、不足のページを加えてください。なお、落丁した１組はカウントされません。
・本機は用紙無し検知スイッチが付いていませんので何れかの段で用紙が終了した場合、最後の１部は用紙が終了した段が落丁しています。

ポイント！
・排紙された用紙の揃えが悪いときは、
「５．１．３　排紙テーブルガイド・ポールのセット」を参考に調節してください。

５．２　カウンター

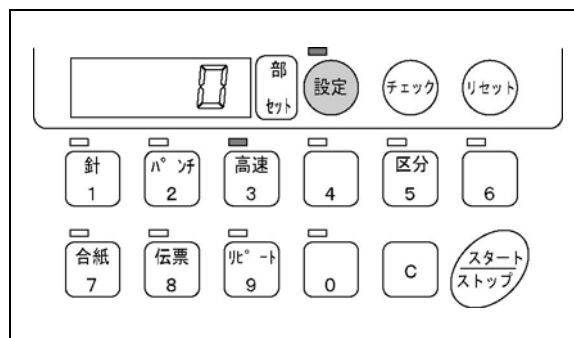
５．２．１　加算モード

通常は加算表示です。そのまま「スタート／ストップ」キーを押すと丁合を開始し、用紙が完全に排出されてから停止します。
カウンターには処理された丁合数が表示され、〔９９９９〕になると自動的に停止します。

継続して丁合をする場合は「スタート／ストップ」キーを押してください。カウンター表示は〔０〕となり、再び加算表示をします。

５．２．２　減算モード

丁合数を数字キーで入力します。
数字キーを押すと自動的に減算モードランプが点灯します。
カウンターが〔０〕となった時停止します。
動作中に「スタート／ストップ」キーを押すと停止し、カウンターに残数を表示します。

５．３　速度切替え

丁合する用紙に合わせて速度を切替える事ができます。

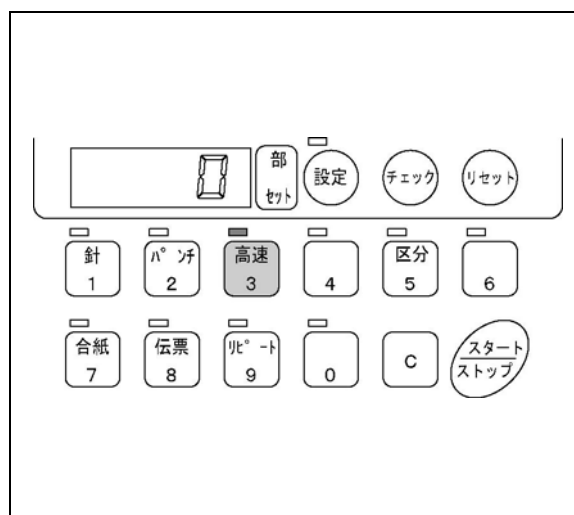
（１）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
（設定ランプ点灯）

（２）「高速／３」キーを押して速度を切替えます。「設定」→「高速」キーを押すたびに速度が高速⇔低速に切替わります。
（高速：ランプ点灯，低速：ランプ消灯）

注意！

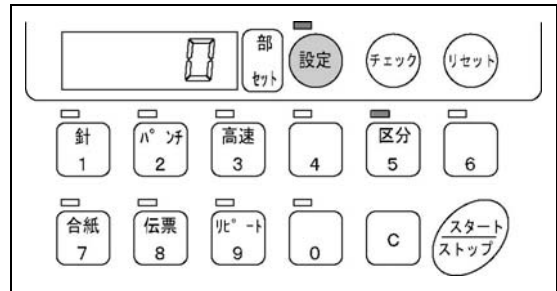
・速度を変えた場合は必ず「チェック」キーを押してから「スタート／ストップ」キーを押してください。用紙のチェックを行わないと再スタートできません。

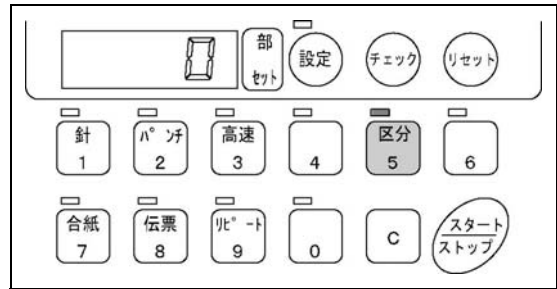
ポイント！

・速度設定は電源をＯＦＦした時の速度を機械が記憶していますので、次回使用時は前回使用した時の速度設定で開始します。

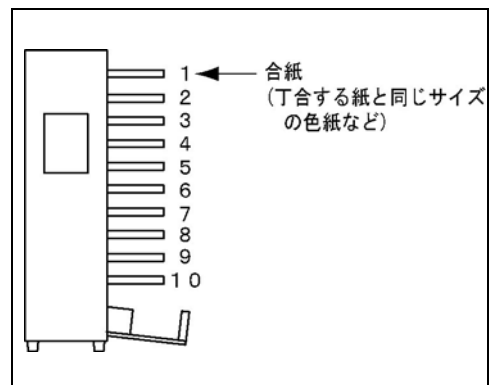
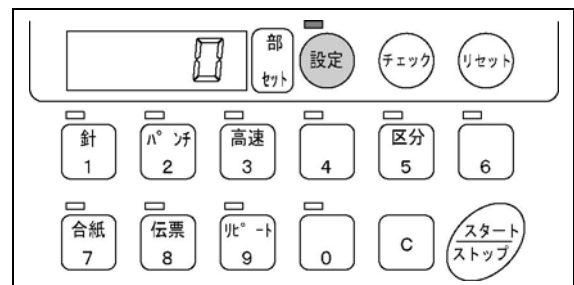
・排紙の揃えが悪い時は、速度を「低速」にすると排紙揃えがよくなります。

５．４　区分け　有／無

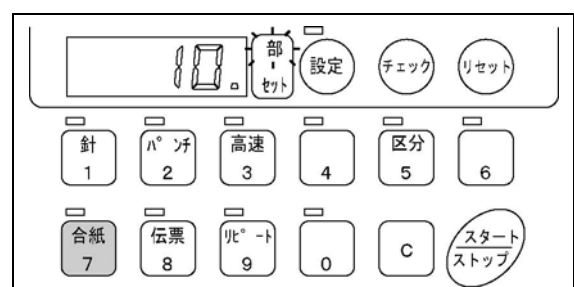
用途に合わせて区分けの有／無を切替える事ができます。
有：１セットずつ左右に交差して積まれます。
　　（ランプ点灯）
無：交差せず、そのまま棒積みになります。

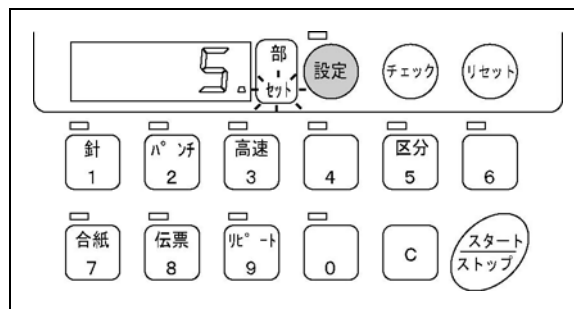
（１）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
　　（設定ランプ点灯）

（２）「区分／５」キーを押して区分けの有／無を切替えます。
「設定」→「区分」キーを押すたびに区分けの有⇔無が切替わります。

電源投入時は、最後に使用した設定の状態になっています。

５．５　合紙モード（合紙：目印となる用紙で使用する用紙と同じサイズの色紙を使用）

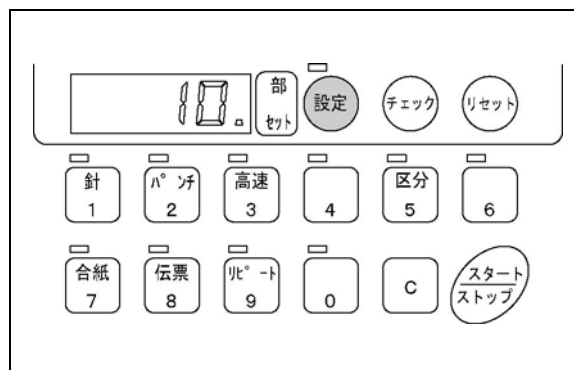
合紙機能は、設定部数毎に最上段にセットされた合紙を入れるモードです。同じ冊子を複数の部署に配布する場合に便利です。
例）１０部ごとに合紙を入れて５セット作成する場合、１０部丁合すると１枚合紙（色紙など）が入り、それを５回繰り返します。
単独時、２台連結時共に使用することができます。

（１）用紙のセット方法
合紙は、使用する段の一番上の段に積みます。例えば、上の段から続けて１０段を使用する場合は、１段目の段に合紙を積みます。

（２）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
（設定ランプ点灯）

（３）「合紙／７」キーを３秒間押し続けると、カウンターが点滅するので部数を入力します。

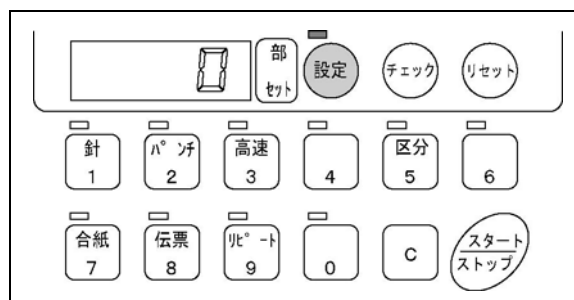
＜例＞
部数として「１０」を入力

（4）「設定」キーを押すと、カウンター横の表示が「部」→「セット」に切替わるので、セット数を入力します。

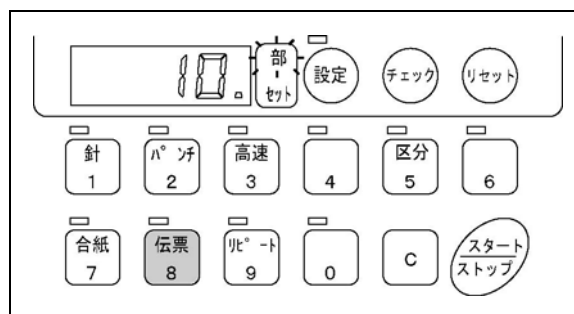
＜例＞
　セット数として「５」を入力

（5）「設定」キーを押すと、カウンターが点灯状態に戻り、先に入力した部数が表示されます。

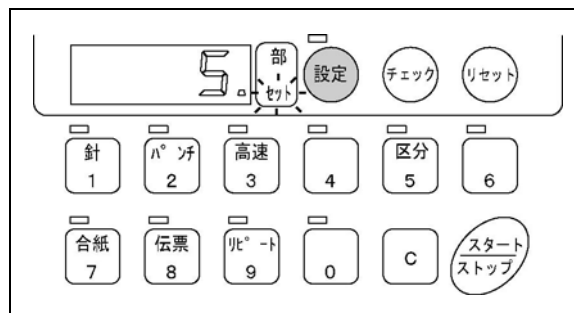
ポイント！

・セット数に〔　　0〕を入力すると、用紙がなくなるまで合紙動作を続けます。
・合紙のセット数を確認するには、合紙モードで「設定」キーを押し続ける事によりセット数を表示する事ができます。
・合紙データを複数記憶する事もできます。詳細は「５．７合紙／伝票データの記憶」を参照してください。

５．６　伝票モード

伝票機能は、設定部数毎に最上段／最下段にセットされた表紙／裏表紙を入れるモードです。伝票を作成する場合に便利です。
単独時のみ使用できます。

（1）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
　　（設定ランプ点灯）

（2）「伝票／８」キーを３秒間押し続けると、カウンターが点滅するので綴り数(部数)を入力します。

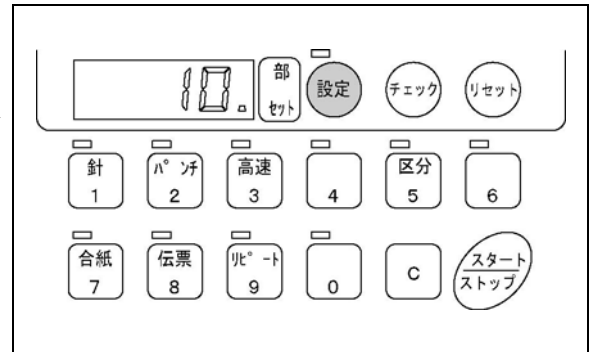
＜例＞
　部数として「１０」を入力

（3）「設定」キーを押すと、カウンター横の表示が「部」→「セット」に切替わるので、作成する伝票の冊数（セット数）を入力します。

＜例＞
　セット数として「５」を入力

（４）「設定」キーを押すと、カウンターが点灯状態に戻り、先に入力した部数が表示されます。

ポイント！

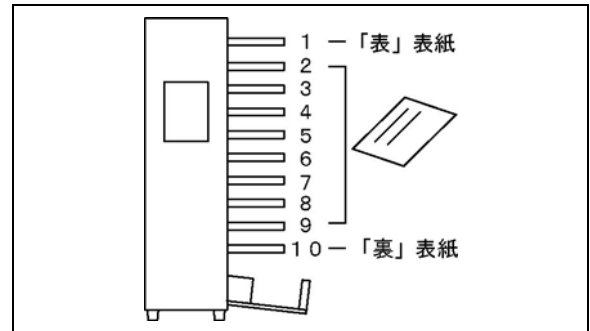
・冊数（セット数）に〔　　０〕を入力すると、用紙がなくなるまで伝票動作を続けます。

・伝票の冊数（セット数）を確認するには、伝票モードで「設定」キーを押し続ける事により冊数（セット数）を表示する事ができます。

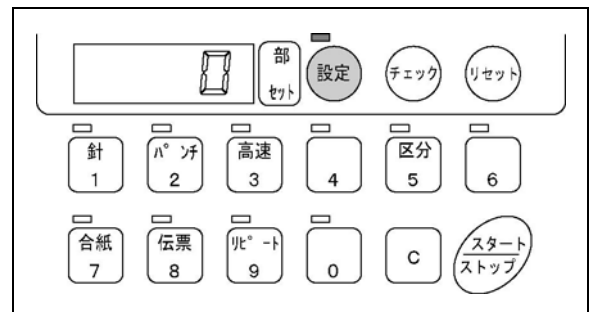
・伝票データを複数記憶する事もできます。詳細は「５．８合紙／伝票データの記憶」を参照してください。

（５）用紙のセット方法

必ず印刷面を上にして積んでください。

例えば､上の段から続けて１０段を使用する場合は､１段目の段に｢表｣表紙､１０段目の段に｢裏｣表紙を積みます。

使用段が１０段以下の場合は、最下段に「裏」表紙を積み、使用段の最上段に「表」表紙を積みます。使用段が１０段以下の場合は、使用段数の最上段１を１番目と自動的に認識します。

５．７　合紙／伝票データの記憶

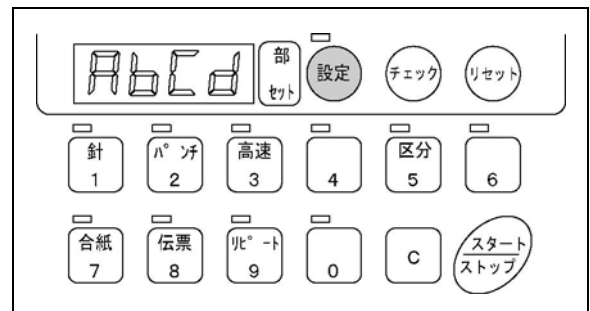
合紙／伝票メモリは､最大４項まで記憶する事ができます。

（１）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
（設定ランプ点灯）

（２）「設定」キーを３秒間押し続けると、カウンターにメモリ番号〔ＡｂＣｄ〕が表示されます。

・点滅しているメモリは空

・点灯しているメモリは既に使用

合紙／伝票メモリの内容を直接確認する事はできません。メモリの中身は、

「５．８合紙／伝票データの呼出し」を実行してから確認してください。

（３）メモリＡ～Ｄに相当するキーを３秒以上押し続け、記憶させます。

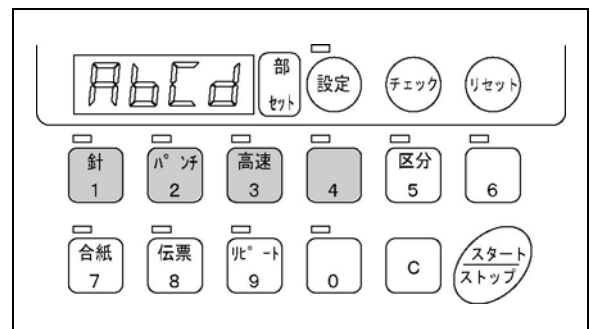
メモリＡ～Ｄはそれぞれ

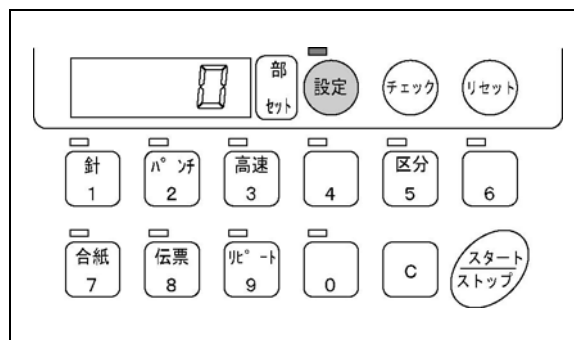
メモリＡ：「１」キー

メモリＢ：「２」キー

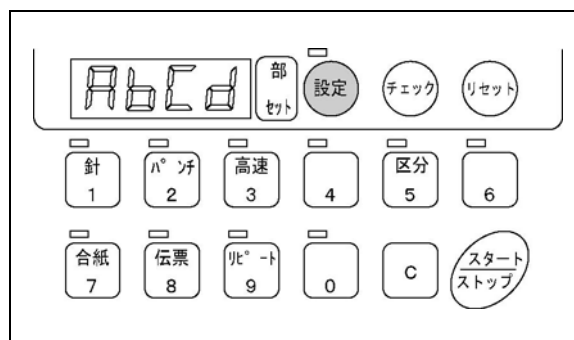
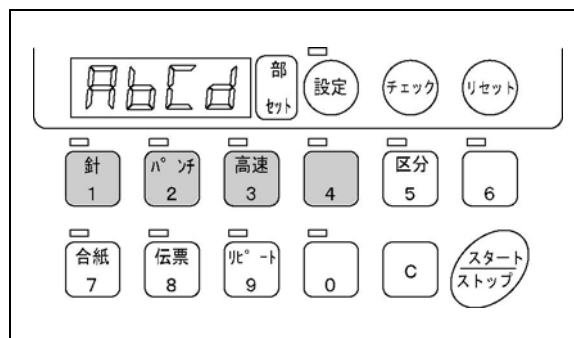
メモリＣ：「３」キー

メモリＤ：「４」キー　　　に対応しています。

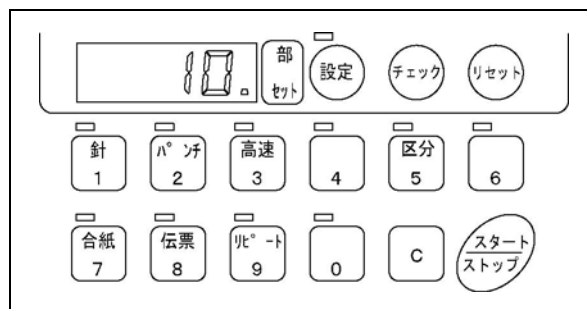
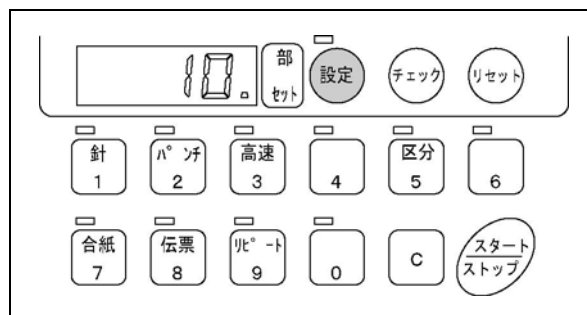
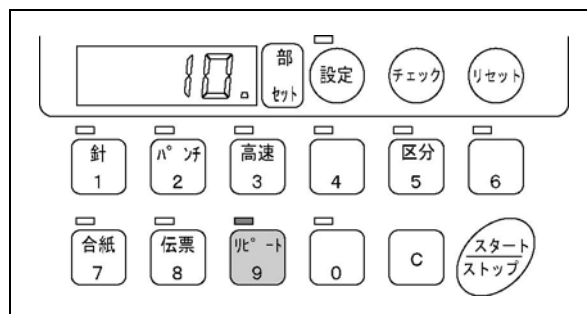
メモリへの記憶をキャンセルする場合は｢リセット」キーを押します。

５．８　合紙／伝票データの呼出し

（１）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
（設定ランプ点灯）

（２）「設定」キーを３秒間押し続けると、カウンターにメモリ番号〔ＡｂＣｄ〕が表示されます。
・点滅しているメモリは空
・点灯しているメモリは既に使用

注意！

合紙/伝票メモリの内容を直接確認するには、メモリの中身を一度呼出す必要があります。
「５．５　合紙モード」
「５．６　伝票モード」　参照

（３）メモリＡ～Ｄに相当するキーを押して設定値を呼出します。
メモリＡ～Ｄはそれぞれ
メモリＡ：「１」キー
メモリＢ：「２」キー
メモリＣ：「３」キー
メモリＤ：「４」キー　　　に対応しています。
メモリの呼出しをキャンセルする場合は「リセット」キーを押します。

５．９　リピート機能

リピート機能は、設定部数毎に区分け動作を入れるモードです。伝票の綴り部分のみを作成する場合に便利です。

（1）区分けを入れる部数を設定します。

（2）「設定」キーを押して設定モードに切替えます。
（設定ランプ点灯）

（3）「リピート／９」キーを押してリピートランプを点灯させます。

５．１０　単独／連結（オプション接続）の切替え

単独／連結（オプション接続）は次の方法で切替えることができます。

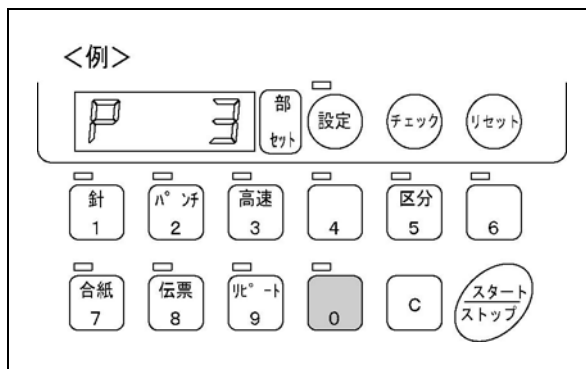
＜単独使用の場合＞
切替レバーを単独側に切替えると単独通常丁合排紙になります。
（単独使用では連結側に切替える必要はありません）

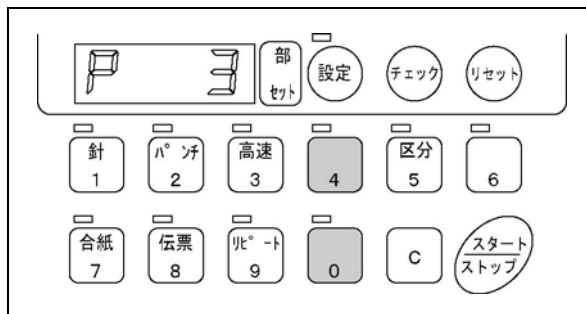
＜連結使用の場合＞
オプションで後処理機を接続した場合に切替レバーを連結側に切替えます。また、後処理機が接続された状態でも切替レバーを単独側に切替えればコレータ単独使用ができます。

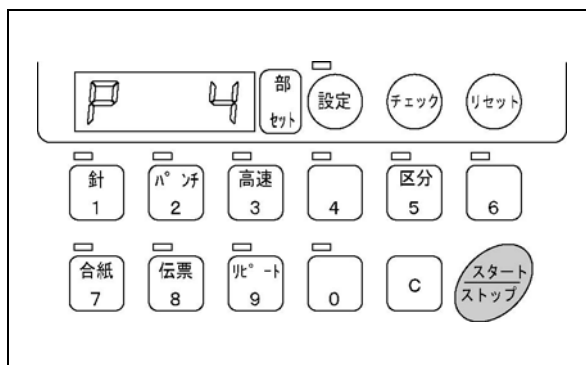
５．１１　給紙発光強度の変更

コレーターはチェック時に用紙の厚みを検知して自動的に発光強度を調整しますが、初期設定された発光強度が強すぎた場合、薄い紙を給紙した時に給紙したにもかかわらず空送りと判断する事があります。これは、用紙の厚みに対して発光強度が強すぎたため光の透過量が多くなり、センサーが紙を検知できなくなるために起こります。このような場合、手動で発光強度を設定し直す必要があります。
発光強度を設定するには、システム定数“Ｐ”の値を変更する必要があります。
数回用紙チェックを繰り返すと、繰り返すたびに用紙の厚さに適した発光強度を自動的に順応させせます。

５．１１．１　システム定数“Ｐ”の変更

（１）「０」キーを３秒以上押し続け、システム定数設定モードに移行するとカウンターに
〔Ｐ　　○〕が表示されます。（○は現在の設定値：１～９，Ａ，ｂ，Ｃ，ｄ，Ｅ，Ｆのいずれかの値をとる）
システム定数は、１９項の設定が可能です。
「設定」キー　　：次の項目に移動
「リセット」キー：前の項目に移動
「チェック」キー：一時変更して終了
「スタート」キー：記憶して終了

（２）「４」キーで発光強度が＋１、「０」キーで発光強度が－１されます。

ポイント！
工場出荷値は、３～４の値をとります。
（上質５５kgの用紙で調整）

（３）「スタート」キーを押して変更した値を記憶させます。

ポイント！
「スタート」キーを押して終了した場合、設定値は電源を切っても記憶されます。
一方、「チェック」キーを押して終了した場合は、電源を切ると設定値は変更前の値に戻ります。一時的な変更をする場合は「チェック」キーでシステム定数設定モードを抜けてください。

６． 保守・点検・消耗品

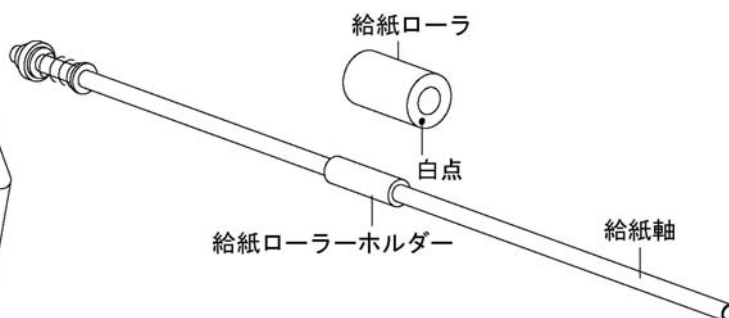
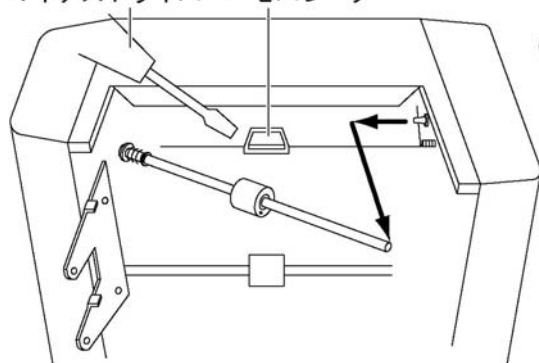
６．１ 点検・お手入れ時の注意事項

警　告

点検・手入れ時には電源プラグをコンセントから抜いてください。
けが・感電の恐れがあります。

６．２ 日常のお手入れ

＜給紙テーブルの外し方は１４ページ参照＞

・給紙ローラ・セパレータの清掃・交換

ポイント！

清掃しても空送り、重送などのトラブルが発生する場合は、給紙ローラ、セパレータが消耗しています。給紙ローラ、セパレータのゴムのみ外し交換をしてください。セパレータのゴムを取付ける際は、裏面に瞬間接着剤を少量塗付してください。給紙ローラをセットするときは、給紙ローラの白点が右側になるよう注意してください。また、給紙ローラーホルダーに給紙ローラをセットした後は、机の上等平らな所で給紙ローラを回転させて平らに取付けられているか確認してください。（歪んで取付けられていると給紙ミスや重送等給紙トラブルの要因になります）セパレータを取外す場合は、マイナスドライバー等を使用してください。

（１）給紙テーブルを取外し、給紙軸部分を持って軸を左に押し込み、手前に引き抜きます。給紙ローラの位置がずれた場合は、給紙ローラがセパレータの中央に位置するよう直してください。

（２）外した給紙軸の給紙ローラをゴムローラー専用クリーナーＣ※を染み込ませた布で汚れを落としてください。同様にセパレータの汚れも落としてください。セパレータは機械についたままで清掃します。

※ゴムローラー専用クリーナー ＬＧ－ＣＬ５００ ：注文コード ８４６－２４

（３）外したときと逆の要領で給紙軸を取付けます。

・外装部の清掃

中性洗剤を薄めたものを布に含ませた後、固く絞ってから汚れを拭き取ってください。

注意！

溶剤系の洗浄液は変色の原因となるので使用しないでください。

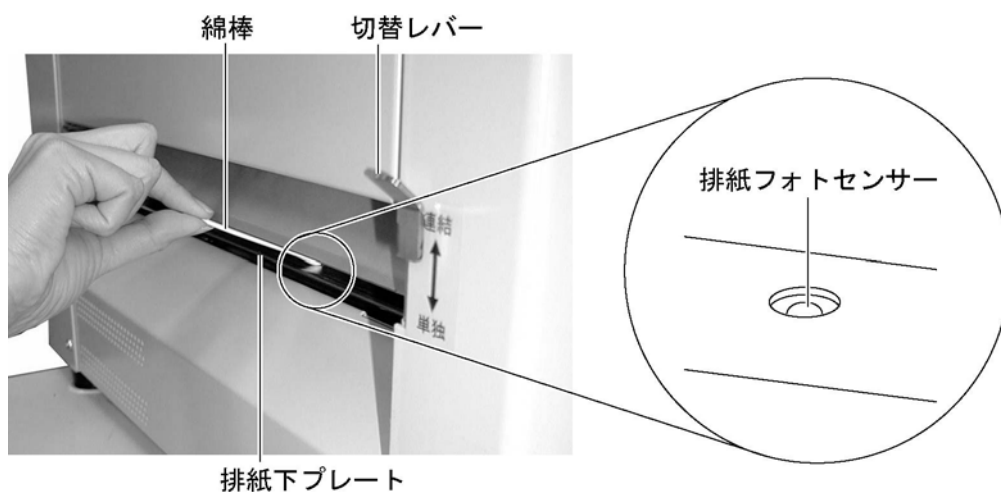
・給紙フォトセンサーの清掃

① 給紙テーブルを取外します。
（１４ページ参照）
② 給紙ローラを取外します。
（２７ページ参照）
③ 上側のフォトセンサーの表面を綿棒で清掃し、下側のフォトセンサーは上ガイドの三角穴から綿棒を挿入し、表面を清掃します。

・排紙フォトセンサーの清掃

使用していると用紙の紙粉やインク等が出て、排紙フォトセンサーの表面に付着して、フォトの光を遮断してしまいます。そうすると排紙ジャムとなります。そのため、定期的に排紙フォトセンサーを清掃してください。

清掃方法：①単独/連結切替レバーを連結側に切替えます。

②排紙下プレートの直径約７㎜の穴から見えるフォトセンサーに綿棒の位置を合わせて、表面を清掃します。

６．３　消耗品について

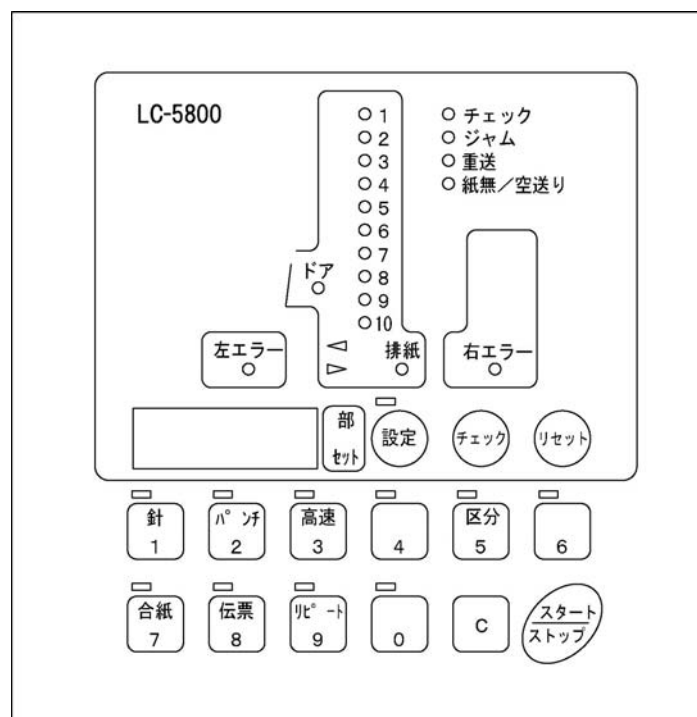
製品に使用されている給紙ローラ・セパレータは消耗品です。交換が必要な場合は、販売店までご連絡ください。

７．　トラブル時の処置

７．１　ランプ点灯／点滅時の対処

紙無／空送り，ジャム，重送ランプ点滅時は、排紙された用紙の最後の１部を抜き取ってください。
エラーの部数は、カウントされないため抜き取られた状態がカウンター部数＝排紙部数となります。

現象	原因	対策
チェック （緑の点灯）	正常動作中	使用段と紙厚のチェックを行う
紙無／空送り （緑の点滅）	用紙が終了または空送りが発生した段のランプが点滅 カウンター表示：Err(空送り) End(紙無し)	用紙を追加する
		用紙をよくさばく
		給紙ローラ及びセパレータをクリーナーで清掃する
		用紙の表／裏を反転する
ジャム （赤の点滅）	用紙が途中で詰まった時、エラーの発生している段と紙詰まりのランプが点灯 カウンター表示：Ｅｒｒ	用紙をよくさばく
		セパレータ圧を１段弱くする
重送 （赤の点滅）	重送が発生した段と重送のランプが点滅 カウンター表示：Ｅｒｒ	用紙をよくさばく
		セパレータ圧を１段強くする
		給紙ローラ及びセパレータをクリーナーで清掃する
		同じ段に紙質や印刷の違った用紙が混在する場合に発生する。必ず同一種類の紙質をセットする
		重送された余分なページを排紙テーブルから取除く
排紙 （赤の点滅）	排紙テーブル上に用紙が満杯及び排紙詰まりが発生している カウンター表示：Ｅｒｒ	満杯になった用紙及び詰まった用紙を取除いてから「リセット」キーを押す
排紙 （赤の点灯）	排紙フォトがさえぎられている カウンター表示：Ｅｒｒ	排紙テーブルを正しくセットする
		コレーター本体を水平な場所にセットする
		排紙フォトセンサーの紙粉を除去する ＜28 ページ参照＞
「チェック」キーを押して用紙のチェックを行った時、重送が発生していないのに段のランプが赤で点滅	給紙フォトの発光が用紙の厚さに対して明るすぎるまたは暗すぎる 明るすぎ：速い点滅 暗すぎ　：遅い点滅	「チェック」キーを押して数回用紙チェックを繰り返す。チェックを繰り返すたびに用紙の厚さに適した発光感度を自動的に順応させる
「チェック」キーを押して用紙のチェックを行った時、正常に給紙しているのに段のランプが緑で点滅	給紙フォトの発光が用紙の厚さに対して極端に明るすぎる	**「５．１１給紙発光強度の変更」**参照 （１）発光強度を初期値に戻す 電源スイッチを切り、「クリア」キーを押しながら電源スイッチをＯＮする
		（２）発光強度を変える ①「０」キーを秒以上押すとカウンター表示が「Ｐ３となり、給紙フォト発光強度が表示される（通常は「Ｐ３」、「Ｐ４」が初期値） ②「スタート/ストップ」キーを押してセット完了

点滅を解除するには「リセット」キーを押してください。
点灯の場合は、トラブルが取除かれた時消灯します。

７． ２　トラブルの内容と処置

現　象	原　因	処　置
電源スイッチを入れてもカウンターに何も表示されない	電源プラグが抜けている	電源プラグを確実に差し込む
	ブレーカが働いている	ブレーカをリセットする
	機械内部の異常	販売店へ連絡する
「スタート」キーを押しても機械が動かない	用紙チェックがされていない カウンター表示のままでピピーと音がする	「チェック」キーを押して試し送りをする
	テーブル昇降レバーが下がっている	テーブル昇降レバーを上げる
「チェック」キーを押しても機械が動かない（操作部に異常ランプが点灯・点滅している）	テーブル昇降レバーが下がっている	テーブル昇降レバーを上げる
	排紙満杯または排紙部紙詰まり発生	用紙を取除く
	給紙部で紙が詰まっている	用紙を取除く
	ステープラパンチ使用時、ステープラパンチ内で紙詰まり・針無しブレーカ切れ等が発生している	原因を取除く
	機械内部の異常	販売店へ連絡する
現　象	原　因	処　置
「スタート」キーまたは「チェック」キーを押して機械は作動するが紙を送らない	用紙のセット不良	用紙を各段に確実にセットする
排紙詰まりが多発する及び排紙が不揃い	排紙テーブルの用紙ガイド類の設定位置がずれている	用紙ガイド類の位置を再調整する
	排紙ワイヤーのセット不良	正しくセットする
紙詰まり・重送・空送りが多発する	給紙ローラが汚れている	給紙ローラを清掃する
	セパレータが汚れている	セパレータを清掃する
	用紙がカールしている	カール矯正後給紙テーブルにセットする
	給紙ローラが摩耗している	給紙ローラを交換する（販売店へ連絡）

	セパレータが摩耗している	セパレータを交換する（販売店へ連絡）
	電源ＯＮのまま給紙テーブルを着脱した	一度電源をＯＦＦしてから給紙テーブルを再セットする
	用紙同士が密着している	用紙を充分にさばく＜16 ページ参照＞
用紙が途中で止まる	電源等による電源ＯＦＦ	「リセット」キーを３秒以上押してメインモーターを回転させて取出す
重送が多発する	セパレータ圧が弱い	セパレータ圧を強くする
	用紙同士が密着している	用紙を充分にさばく＜16 ページ参照＞
空送りが多発する	給紙ローラが汚れている、または磨耗している	給紙ローラを清掃する、または交換する
	セパレータ圧が強い	セパレータ圧を弱くする
	コピーした用紙で先端がカールしている	用紙の表／裏を反転させて再セットする
用紙が汚れる	給紙ローラ・セパレータ・搬送ベルトが汚れている	各ローラー・ベルトを清掃する
排紙ランプ点灯	排紙テーブルセット不良	正しくセットする
	本体及び排紙テーブルが水平でない場所に設置されている	水平な場所に設置する
	機械の排紙部分に直射日光があたっている	カーテン等で光を遮り光があたらないようにする、または機械を直射日光のあたらない場所へ移動する
	排紙フォトセンサーが汚れている	排紙フォトセンサーの紙粉を除去する＜28 ページ参照＞
丁合の処理速度が急に速くなる	機械動作中に排紙部に手や異物が侵入し排紙センサーが誤動作する	機械動作中に排紙部に異物が侵入しないようにする
	本体及び排紙テーブルが水平でない場所に設置されている	水平な場所に設置する
	機械の排紙部分に直射日光があたっている	カーテン等で光を遮り光があたらないようにする、または機械を直射日光のあたらない場所へ移動する
1 枚しか給紙されていないのに重送を表示	同一段の中に紙質の異なる用紙が混在している	同一段の中には同じ紙質の用紙を使用する
	同一段の中に印刷の異なる用紙が混在している	同一段の中には同じ内容の印刷物を使用する
	仕様外の用紙を使用している	仕様内の用紙を使用する
各段のランプが上下に点灯・消灯・移動を繰り返す	テーブル昇降レバーが下がっている	テーブル昇降レバーを上げる
排紙テーブルが動かない	区分け無しの設定になっている	区分け設定を有りの設定にする。 P21　5.4「区分け有／無」参照

７．３　故障の場合

修理が必要な場合は、お買い求めの販売店までご連絡ください。

８．　移設または廃棄するとき

８．１　移設

８．１．１　旧設置場所からの撤去作業

電源プラグをコンセントから抜き取る。

８．１．２　運搬

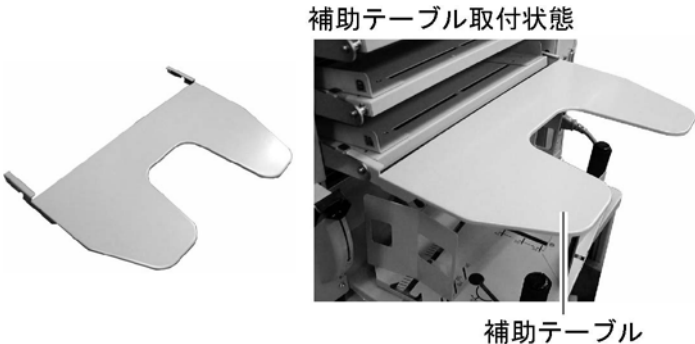
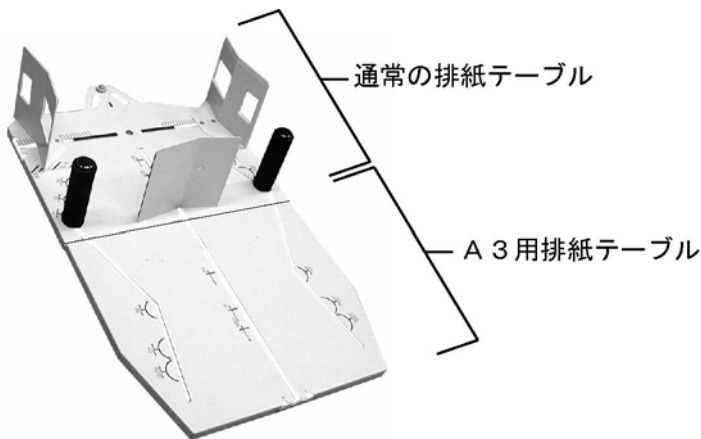
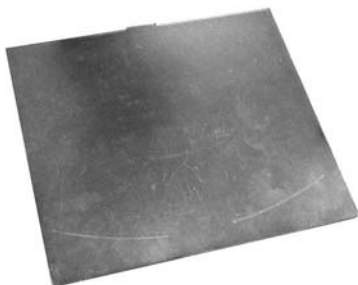
・取外した部品や付属品、取扱説明書を一緒に運ぶ。
・強い振動や衝撃を与えないようにする。

８．１．３　移設先での設置

新設の場所と同様、全ての作業を行ってください。

８．２　廃棄

廃棄する際は、各地方自治体の政令に従い産業廃棄物処理業者に依頼するなど、適切な処理をしてください。

９．　製品仕様

９．１　仕様

丁　合　段　数	10 段
給紙テーブル	脱着式
給　紙　方　法	摩擦ローラーセパレーター方式（中央１輪給紙ローラー方式）
各段給紙積載量	17 ㎜（上質紙 200 枚相当）
搬　送　方　法	ベルトローラー式
排　紙　積　載　量	70 ㎜（上質紙 870 枚相当）
排紙区分方式	左右各 10°インデックス方式/棒積み切替え（Ａ５以下の用紙サイズは棒積みのみ）
処　理　速　度	65･45 セット/分（A4 使用時）
用　紙　サ　イ　ズ	Ａ４・Ｂ５・Ａ５・はがき（100×148 ㎜）・システム手帳（95×170 ㎜） オプションにて最大Ａ３ＳＲ（325×462 ㎜）まで対応可
紙　　　質	上質紙（45～110kg）・中質紙・上質孔版紙・更紙（Ｂ４）・特定のノンカーボン紙
使用給紙段検知	「チェック」キーによる試し送りで使用段数をチェック
使用紙質検知	「チェック」キーによる試し送りで各棚の用紙厚さをチェック
給紙ミス検知	空送り・紙詰まり・重送（光センサーによる検知） ※紙無し検知は用紙空送りによる停止となる
その他の検知	排紙テーブル用紙満杯検知・排紙詰まり検知 （オプションの後処理機装着時針なし検知・紙詰まり検知） カウンターデジタル表示 4 桁・加算/減算（プリセット）切替え可能
付　加　機　能	・給紙ローラ容易に脱着、交換可能 ・合紙挿入（指定セットごとに合紙を挿入） ・プログラム合紙（1 段目に表表紙、10 段目に裏表紙をセットし、システム手帳・伝票等の丁合用として使用） ・セパレーター圧 3 段（銘板に表示はないが 4 段目内蔵･･･特殊な用紙に使用）
電　　　源	ＡＣ100Ｖ　　50/60Hz
消　費　電　力	200W
機　械　寸　法	使用時　W500×D530×H880 ㎜
機　械　質　量	64 kg

※仕様は改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

９．２　オプションについて

Ｂ４／Ａ３サイズの用紙を使用する場合に必要となります。

オプション部品	個数	図
補助テーブル	１０	
Ａ３用排紙テーブル （取付ビス RKSW3×6-4 個付属）	1	
Ａ３用排紙ベース	1	

取扱説明書

卓上オートコレーター　LC-5800

修理・その他ご不明な点については、お買い求めの販売店もしくはお客様相談室へご連絡ください。

お客様相談室
〒１６４－０００３　東京都中野区東中野２丁目６番11号
ＴＥＬ　フリーダイヤル　０１２０－０７４４１６
ＦＡＸ　フリーダイヤル　０１２０－４０２５３９

株式会社ライオン事務器

本　　社	〒164-0003	東京都中野区東中野２丁目６番11号	TEL03-3369-1111
東京本店	〒103-0004	東京都中央区東日本橋２丁目24番14号	TEL03-3865-1211
大阪本店	〒577-0003	大阪府東大阪市長田中３丁目100	TEL06-6747-5681